



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月8日

上場会社名 伊藤ハム米久ホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2296 URL <https://www.itoham-yonekyu-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮下 功

問合せ先責任者 (役職名) 広報IR室長 (氏名) 加藤 勝

TEL 03-5723-6889

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	448,004	7.2	15,138	4.5	16,161	2.3	10,905	7.7
2022年3月期第2四半期	417,762		14,480		16,540		11,810	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 15,557百万円 (26.8%) 2022年3月期第2四半期 12,271百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	37.52	37.51
2022年3月期第2四半期	40.33	40.31

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を前連結会計年度の期首から適用しているため、2022年3月期第2四半期に係る各数値の対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	449,932	269,401	59.7
2022年3月期	413,123	262,740	63.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 268,758百万円 2022年3月期 262,023百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		23.00	23.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	895,000	4.8	21,000	14.7	24,000	16.1	15,000	21.5	51.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	292,355,059 株	2022年3月期	297,355,059 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	3,511,640 株	2022年3月期	5,458,762 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	290,631,539 株	2022年3月期2Q	292,809,698 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法、四半期決算説明会の開催予定)

四半期決算発表後、四半期決算説明資料をTDnetに開示し、当社ホームページにも掲載します。

また、2022年11月9日(水)に機関投資家・アナリスト向けの第2四半期決算説明会をWEB会議と同時開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進む中で景気は持ち直しの動きがみられましたが、資源価格の高騰や急激な円安進行等による物価上昇が続いており、消費マインドの低下が懸念される状況となっています。

当業界においても、原材料価格や光熱費の高騰に加え、急激な円安の影響等によりコストが上昇し、厳しい経営環境が続きました。また、消費行動の変化やデジタル化の加速、サステナビリティに対する関心の高まりなど、急速に変化し多様化する消費者ニーズや価値観への対応が引き続き求められています。

このような状況の中、当社グループは「中期経営計画2023」の重点取り組み方針に則り、「経営基盤の強化」と「収益基盤の強化」に向けて、より効率的で競争力のある事業執行体制と組織体制を構築し、統合効果の最大化と成長力の向上に繋げるため、2023年4月1日付で当社を事業持株会社とするグループ全体の組織再編を行うことを決定しました。また、「新規事業・市場への取り組み」では、ノンミート商品のラインアップ強化に加え、動物由来血液製剤事業買収によるヘルスケア事業の強化にも取り組んでいます。さらに、「サステナビリティへの取り組み」として、当社グループの温室効果ガス排出量を2030年度までに2016年度比で半減し、2050年にネットゼロとする目標を策定し、実行に向けての取り組みを進めています。

「中期経営計画2023」における定量指標としては、投下資本利益率（ROIC）を重視し、対象期間中に6.8%まで向上させていくことを目指しています。また、財務健全性と資本効率性を勘案した株主還元策によって株主価値の最大化を図るため、配当性向については、30～50%の範囲で、40%を目途に安定的に増配していく方針です。自己株取得についても、当年度は50億円の取得枠を設定し、第2四半期末までに21億円の取得と5百万株の消却を行っています。

上記のとおり、経営環境の変化に対応した取り組みを行った結果、当第2四半期連結累計期間の業績については、売上高は、前年同四半期に比べて30,241百万円増加し、448,004百万円（前年同四半期比7.2%増）、営業利益は、前年同四半期に比べて658百万円増加し、15,138百万円（前年同四半期比4.5%増）、経常利益は、前年同四半期に比べて379百万円減少し、16,161百万円（前年同四半期比2.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に比べて904百万円減少し、10,905百万円（前年同四半期比7.7%減）となりました。

報告セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

<加工食品事業>

ハム・ソーセージについては、テレビコマーシャルの投入や消費者キャンペーンの実施により、「The GRAND アルトバイエルン」「朝のフレッシュシリーズ」「ポークピッツ」「御殿場高原あらびきポーク」「原形ベーコンシリーズ」等、家庭用主力商品の拡販に努めたことに加え、ローストビーフをはじめとする業務用商品の販売が伸長したことから、売上高は増加しました。

調理加工食品については、「ラ・ピッツァ」「ピザガーデン」などのピザ類や簡便調理の「クイックディナーシリーズ」「お肉屋さんの惣菜シリーズ」「米久の肉だんごシリーズ」に加え、大豆ミートを使用した「まるでお肉！シリーズ」等、消費者ニーズの多様化に対応した商品の拡販に努めましたが、販売数量が減少したことから、売上高は減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の加工食品事業の売上高は、商品価格改定の効果もあり、前年同四半期に比べて4,002百万円増加し、179,797百万円（前年同四半期比2.3%増）となりました。経常利益は、原材料価格や光熱費の高騰等、更なるコスト上昇の影響により、前年同四半期に比べて2,583百万円減少し、4,577百万円（前年同四半期比36.1%減）となりました。

<食肉事業>

国内事業については、輸入食肉は、現地価格の上昇や急激な円安進行により高値で推移したことから販売数量が減少した一方、国内事業全般における販売単価の上昇や、外食産業の回復にともなう国産牛肉の販売伸長等により、売上高は増加しました。利益については、調達価格、飼料価格及び燃料費等が上昇した影響を受けて、減益となりました。

海外事業については、アンズコフーズ社が採算重視の調達及び販売に努めたことに加え、海外での堅調な食肉需要を受けて販売価格が上昇したことから、売上高、利益ともに増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の食肉事業の売上高は、前年同四半期に比べて26,146百万円増加し、266,018百万円（前年同四半期比10.9%増）、経常利益は、アンズコフーズ社の業績が好調に推移したことから、前年同四半期に比べて2,392百万円増加し、12,250百万円（前年同四半期比24.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて36,808百万円増加し、449,932百万円となりました。これは主に、棚卸資産の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて30,147百万円増加し、180,530百万円となりました。これは主に、短期借入金、支払手形及び買掛金の増加によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて6,661百万円増加し、269,401百万円となりました。これは主に、利益剰余金と為替換算調整勘定の増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べて27,330百万円減少（前年同四半期は21,599百万円の減少）し、20,359百万円となりました。

◇営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により資金は17,187百万円減少（前年同四半期は9,705百万円の減少）しました。主な減少要因は、棚卸資産の増加であり、主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益の計上です。

◇投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により資金は14,717百万円減少（前年同四半期は5,433百万円の減少）しました。主な減少要因は、固定資産の取得と事業譲受による支出です。

◇財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により資金は3,866百万円増加（前年同四半期は6,778百万円の減少）しました。主な増加要因は、短期借入金の増加であり、主な減少要因は、配当金の支払と自己株式の取得による支出です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、売上高は、主に食肉事業の販売価格の上昇等により、2022年5月9日に公表した予想を上回る見込みのため、以下のとおり修正します。利益は、海外事業が好調に推移している一方、原材料価格や光熱費の高騰に加え、円安の進行による影響が引き続き懸念されるため、前回発表の予想を据え置くこととします。

2023年3月期 通期連結業績予想数値の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想(A)	865,000	21,000	24,000	15,000	51.93
今回修正予想(B)	895,000	21,000	24,000	15,000	51.93
増減額(B-A)	30,000	-	-	-	
増減率(%)	3.5	-	-	-	
(参考)前期連結実績 (2022年3月期 通期)	854,374	24,611	28,596	19,118	65.34

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,991	20,659
受取手形及び売掛金	89,008	98,385
商品及び製品	74,814	103,325
仕掛品	1,713	1,977
原材料及び貯蔵品	19,037	27,206
その他	10,848	17,344
貸倒引当金	△7	△14
流動資産合計	243,405	268,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	36,252	37,343
機械装置及び運搬具（純額）	28,274	28,575
工具、器具及び備品（純額）	1,530	1,520
土地	26,017	26,475
リース資産（純額）	2,487	3,001
その他（純額）	2,437	4,720
有形固定資産合計	97,000	101,636
無形固定資産		
のれん	18,158	19,041
その他	3,955	7,654
無形固定資産合計	22,114	26,695
投資その他の資産		
投資有価証券	29,598	30,893
退職給付に係る資産	14,722	15,323
その他	6,374	6,590
貸倒引当金	△93	△92
投資その他の資産合計	50,602	52,714
固定資産合計	169,717	181,046
資産合計	413,123	449,932

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	62,351	72,853
電子記録債務	1,747	1,824
短期借入金	24,407	39,938
1年内返済予定の長期借入金	144	133
未払法人税等	2,891	4,531
賞与引当金	6,617	4,322
役員賞与引当金	151	77
災害損失引当金	329	329
その他	27,894	30,938
流動負債合計	126,533	154,948
固定負債		
長期借入金	10,572	10,508
退職給付に係る負債	1,706	1,689
資産除去債務	1,490	1,489
その他	10,080	11,894
固定負債合計	23,849	25,581
負債合計	150,383	180,530
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,003	30,003
資本剰余金	96,615	92,924
利益剰余金	129,805	133,996
自己株式	△4,150	△2,494
株主資本合計	252,273	254,429
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,727	6,803
繰延ヘッジ損益	151	85
為替換算調整勘定	△684	4,015
退職給付に係る調整累計額	3,556	3,423
その他の包括利益累計額合計	9,750	14,328
新株予約権	118	77
非支配株主持分	598	565
純資産合計	262,740	269,401
負債純資産合計	413,123	449,932

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	417,762	448,004
売上原価	350,583	380,396
売上総利益	67,178	67,607
販売費及び一般管理費	52,698	52,469
営業利益	14,480	15,138
営業外収益		
受取利息	17	36
受取配当金	148	136
受取賃貸料	210	231
助成金収入	540	547
持分法による投資利益	888	-
その他	551	562
営業外収益合計	2,357	1,514
営業外費用		
支払利息	168	306
不動産賃貸費用	63	73
持分法による投資損失	-	19
その他	64	92
営業外費用合計	296	491
経常利益	16,540	16,161
特別利益		
固定資産売却益	4	4
投資有価証券売却益	55	0
受取保険金	134	-
固定資産受贈益	232	-
その他	24	-
特別利益合計	451	4
特別損失		
固定資産除却損	91	127
その他	11	-
特別損失合計	103	127
税金等調整前四半期純利益	16,888	16,038
法人税、住民税及び事業税	3,867	4,625
法人税等調整額	1,188	478
法人税等合計	5,055	5,104
四半期純利益	11,833	10,934
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	28
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,810	10,905

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	11,833	10,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△314	58
繰延ヘッジ損益	△73	△65
為替換算調整勘定	1,001	3,004
退職給付に係る調整額	△229	△183
持分法適用会社に対する持分相当額	55	1,809
その他の包括利益合計	438	4,623
四半期包括利益	12,271	15,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,247	15,483
非支配株主に係る四半期包括利益	24	73

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,888	16,038
減価償却費	5,428	5,742
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,226	△2,295
のれん償却額	717	724
受取利息及び受取配当金	△166	△172
支払利息	168	306
受取保険金	△322	△110
助成金収入	△540	△547
固定資産受贈益	△232	-
持分法による投資損益 (△は益)	△888	19
投資有価証券売却損益 (△は益)	△55	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,393	△8,053
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△23,388	△31,249
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,825	9,645
未払金の増減額 (△は減少)	△520	138
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△13	△38
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△944	△848
その他	△2,518	△1,535
小計	△2,181	△12,234
利息及び配当金の受取額	818	1,024
保険金の受取額	265	110
助成金の受取額	324	487
利息の支払額	△168	△306
災害損失の支払額	△60	-
法人税等の支払額	△8,703	△6,268
営業活動によるキャッシュ・フロー	△9,705	△17,187
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,530	△6,011
無形固定資産の取得による支出	△922	△1,226
投資有価証券の取得による支出	△33	△33
投資有価証券の売却及び償還による収入	65	23
貸付けによる支出	△118	△117
貸付金の回収による収入	101	142
事業譲受による支出	-	△6,969
その他	4	△525
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,433	△14,717
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△77	13,398
長期借入金の返済による支出	△78	△75
自己株式の取得による支出	0	△2,156
配当金の支払額	△6,140	△6,704
その他	△482	△595
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,778	3,866
現金及び現金同等物に係る換算差額	317	708
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△21,599	△27,330
現金及び現金同等物の期首残高	50,651	47,690
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,051	20,359

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	加工食品 事業	食肉 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	175,794	239,872	415,667	2,095	417,762	-	417,762
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,195	38,461	50,657	14,503	65,160	△65,160	-
計	187,990	278,334	466,324	16,598	482,923	△65,160	417,762
セグメント利益又は 損失(△)	7,160	9,857	17,018	△24	16,993	△452	16,540

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業及び人事給与関連業務サービス等です。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の主な内容は、のれんの償却額△694百万円等です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	加工食品 事業	食肉 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	179,797	266,018	445,816	2,187	448,004	-	448,004
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,672	39,981	53,654	14,196	67,851	△67,851	-
計	193,470	306,000	499,471	16,384	515,855	△67,851	448,004
セグメント利益又は 損失(△)	4,577	12,250	16,827	△274	16,553	△392	16,161

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業及び人事給与関連業務サービス等です。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の主な内容は、のれんの償却額△694百万円等です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループの組織再編に伴い、従来の製品を基礎とした製品・サービス別の報告セグメントから、組織別の報告セグメントに変更しています。また、当社取締役会等の経営意思決定機関において、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための経営指標として経常利益を用いることとなったため、セグメント利益又は損失について、従来は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っていましたが、経常利益と調整を行うこととしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法及び経常利益と調整を行ったセグメント利益により作成したものを記載しています。